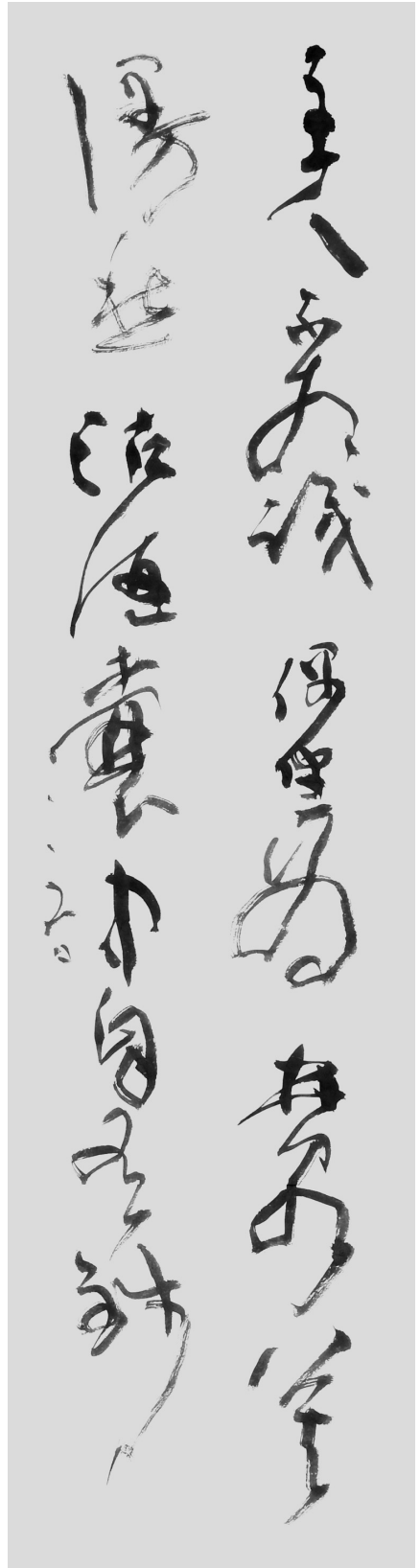


9月25日正午必着

明石春浦先生書



主人不相識
 主人 しゅじん 不 あい 相識 しらず
 莫漫愁沽酒
 莫 もろ 漫 に 愁 を 沽 かう 酒 を
 囊中自有錢
 囊 の 中 うち 自 おの 有 の 錢 ずから

偶坐為林泉
 偶 ぐう 坐 ざり 為 ん 林泉 せんの
 囊中自有錢
 囊 の 中 うち 自 おの 有 の 錢 ずから

(賀知章)

この別荘のご主人とは前から面識があったわけではなく、噂に聞くお庭を拝見した
 かったから、こうしてお会いすることになったのです。酒を買って来て、私をも
 てなそうなどご心配は無用です。それ位のおかねは持っておりますから。

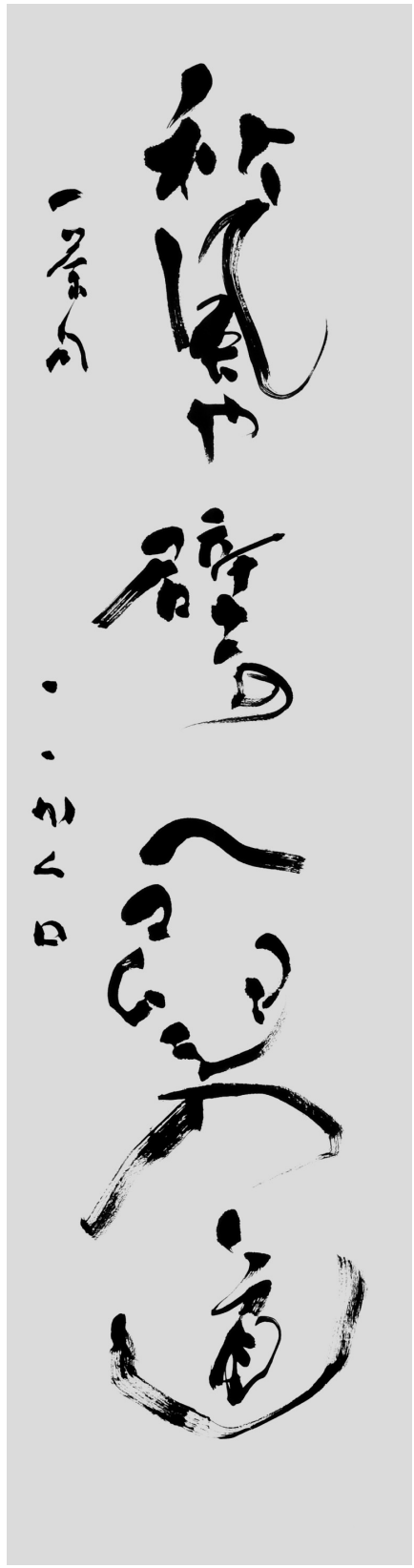
明石幸子書



嵐光浮動千峰濕
 嵐 らん 光 こう 浮 う 動 どう 千 せん 峰 ほう 濕 つる
 雨氣薰蒸五月寒
 雨 う 氣 き 薰 く 蒸 じょう 五 ご 月 げつ 寒 さむ

山中の嵐氣は千峰を濕らせ、雨氣は薰蒸して
 五月をも寒からしめる。

雨宮春聲先生書



秋風や壁のへまむしょ入道 (小林一茶)

へまむしょ入道とは、子供の落書きで横向き入道の戯画(へのへのもへじ)のようなもの。
※ポイント 落書きのような楽しさで…

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

天氣清和(張協)

天氣清和

天は清く氣はやわらぐ。

林前看月光 疑是地上霜
擧頭望山月 低頭思故郷

(李白)

林前月光を看み 疑うらくは是れ地上の霜かと
頭を擧げて山月を望み 頭を低れて故郷を思う

秋夜月を觀て故郷を思う意を述べたものである。

送友及第歸浙東 (方干)

友の及第して浙東に帰るを送る 方干

南行無俗侶 秋雁與寒雲

南行 俗侶無し 秋雁と寒雲とのみ

野趣自多愜 名香人共聞

野趣 自ら多く愜い 名香しくして 人共に聞く

吳山中路斷 淞水半江分

吳山 中路に断え 淞水 半江にして分る

此地登臨慣 攄情一送君

此地 登臨して慣う 情を攄べて 一たび君を送る

目になれし山にはあれど 秋來れば 神や住まむと かしこみて見る

(石川 啄木)

半紙部規定課題A

9月25日正午必着

木 深 禪 房 苑

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

9月25日正午必着

行書

禪房花
木深

隸書

禪房花
木深

明石春浦先生書

草書

禪房花
木深

行草書

禪房花
木深

すがすがしい晨、年古りた寺に入って行くと、おりしもさしのぼる朝日の光が、空高く茂る林の梢を照らす。曲りくねった径は、すかにおくまっただ処に通じ、僧房のあたりに、花咲く木々が深く茂っている。山中の風光は、鳥の本然の性を満足させ、潭に映ずる影は、人の心の雑念を拭い去ってくれ、すべての物音が、いまやここにすべてひっそりとしずまり、ただ寺でうちならす鐘と磬の音だけがきこえてくる。

題「破山寺後院」 常建

清晨入古寺

初日照高林

曲徑通幽處

禪房花木深

山光悅鳥性

潭影空人心

萬籟此俱寂

惟聞鐘磬音

破山寺の後院に題す 常建

清晨 古寺に入り

初日 高林を照らす

曲徑 幽処に通じ

禪房 花木深し

山光 鳥性を悦ばしめ

潭影 人心を空しうす

万籟 此に俱に寂たり

惟だ鐘磬の音を聞くのみ

(出典)
朝日新聞社刊
「三体詩」下より

夜宴酔後留獻裴侍中

九燭臺前十二妹主人面醉

狂歡娛飄飄舞袖雙友花蝶

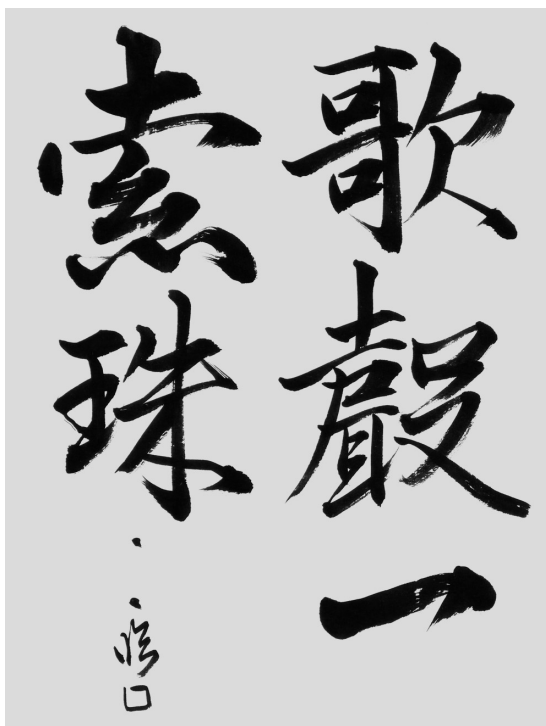
宛轉歌聲一索珠生久欲

醒還酌酌夜深吟散更

夜宴酔後、留獻裴侍中／九燭臺前十二妹 主人留醉任歡娛／飄飄舞袖雙花蝶 宛轉歌聲一索珠／坐久欲醒還酌酌 夜深臨散更（踟躕）
夜宴酔後留りて裴侍中に献す。 九燭台前十二の妹、主人留め酔わしめて歡娛するに任す。 飄飄たる舞袖双花の蝶、宛轉たる歌声、一索の珠。 坐すること久しく醒めんとして還酌酌し、夜深く散ずるに臨んで更に（踟躕す。）



(飄飄たる舞袖双) 花の蝶、宛轉たる歌声、一索の珠。坐すること久しく醒めんとして還酌し、



(宛轉たる) 歌声、一索の珠。

平安 藤原行成・白樂天詩卷

平安時代は、貴族の文化であり、従来の唐風文化から離れて国風文化へと移行していった時代でもあった。書の世界でも「三筆」の時代から「三蹟」(小野道風、藤原佐理、藤原行成)の時代へと唐風の書が優美典雅な和様書道へと変化していった。藤原行成の父は一条摂政原伊尹の子義孝、母は醍醐源氏・中納言源保光女、生まれてすぐ伊尹の養子となるが、伊尹がその年に没し、父の義孝も行成三歳の時に没、以後は母と外祖父保光に育てられる。若い頃はかなり不遇で、出家も考えるほどだった。源俊賢が藏人頭の後任に推挙してくれたことにより運が開け、出世するようになる。

書においては、優れた「手書き」で、世尊寺流の開祖として特別に尊重され、行成の書跡は「権跡」と呼ばれるようになる。この白樂天詩卷は、中国・唐時代中期の詩人、白居易(白樂天 七七二〜八四六)の詩文集『白氏文集』から四篇の詩を揮毫したもので、百八十二行より成る。紙枚は十一紙、毎行十三、四字を前後する程度で、文字の大小も甚だしい変化を示していない。しかし、その一字一時のすがたはさすがに優雅端麗をつくし、平安時代の典型的な筆蹟となすべきものである。(春龍)



雨宮春聲先生書

え
絵

ふで
筆

中学一年



菅井松雲先生書

くろ
黒

しお
潮

中学二三年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



とう 票
ひょう

小学五年

榎戸春龍先生書



こう 運
うん

小学六年

横川春川先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

9月25日正午必着



藤田幸春先生書

し 竹 な 刀

小学三年



細谷春誠先生書

か 活 き 気

小学四年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

に わ 小学一年・幼年



森戸春濤書

おな 同 じ 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

9月25日正午必着

教育部硬筆

ペン字部

みどりの野山をか	けまわる元気な子
----------	----------

小学五年

黒い空にさいた打ち	上げ花火の美しさ
-----------	----------

小学六年

自然は生きていて常に	変化してゆくもの
------------	----------

中学

夜空に月の光が下を渡	り秋は趣が深いものです
------------	-------------

一般(級位)

君忍草にやつるる故郷は松蟲の音ぞかなしかりける	君しのぶ草にやつるる故郷は松蟲の音ぞかなしかりける
-------------------------	---------------------------

一般(段位)

君忍草にやつるる故郷は松蟲の音ぞかなしかりける(讀人しらず)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可) また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

す	あ
の	り
	と
お	き
は	り
な	ぎ
し	り

幼年

ン	す
と	ず
な	虫
い	が
て	り
い	ン
る	り

小学一年

の	夕
	や
赤	け
と	
ん	小
ぼ	や
	け

小学二年

の	海
ぼ	の
る	か
	な
朝	た
日	か
	ら

小学三年

る	秋
さ	風
わ	に
や	す
か	す
な	き
高	が
原	ゆ
	れ

小学四年

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

たしなめて
ものかぬはねん

せうしん
の
秋



松永翠舟先生書

おしなへて ものをおもはぬ 人にさへ ころをつくる 秋のはつかせ (西行)
於 奈 遍 二 越 類 者 可